

学長のコラム

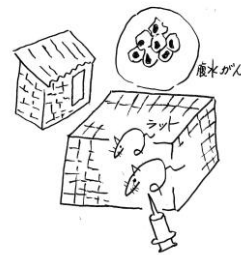
アイスブレイク～自己紹介を兼ねて～

4月1日に学長辞令を受け、2日の入学式をはじめ種々の行事に参加した。ピア・サポーターとの昼食会や新入生歓迎会では多くの学生と話しが出来た。本学は、前任の熊本大学と比べると規模は小さいものの、その分、学生との距離が近く気に入っている。さて、5日の新入生オリエンテーションを見学した際に、「アイスブレイク」として5～6人のグループで自己紹介やゲームが行われていた。ご存じのように「アイスブレイク」とは、初対面の人同士が出会う時などに、緊張をときほぐすための様々な手法のことだが、見学しながら熊大医学部で行われた初めてのFDワークショップのことを思い出した。

そのワークショップは平成12年12月に市内のホテルを利用して2日間開催された。私が病理学の教授に就任した年だったので今でも鮮明に覚えている。初回ということで、タスクフォースには日本医学教育学会の尾島昭次会長（当時）と畑尾正彦副会長（同）を招聘し、本格的なワークショップが開催された。自己紹介を兼ねたアイスブレイクとして実施されたのが、「これまでで一番印象に残っている思い出を絵に描いて説明して下さい。」というものであった。私の絵は以下のものであった。（再現イメージ）私の祖父である竹屋男綱は解剖学者であったが、80歳近くになっても自宅の物置でラットを飼育していて、当時、中学生だった私を呼んで実験の手伝いをさせていた。ラットの腹水がん（吉田肉腫）を継代し、土壤細菌エキスの抗がん効果を試す実験であった。私の役目は、高齢の祖父に替わって、がん細胞をラットの腹腔内に投与し継代したり、土壤細菌エキスを注射することであった。私自身にとって、この経験が基礎医学者を目指す大きなきっかけとなったのは間違いない。今、思えば祖父の目論見はそこにあったのかも知れない。

私はおじいちゃん子であった。幼児の頃から、祖父にはよく遊びに連れて行ってもらった。以下の写真は2歳半の頃に水前寺動物園に連れて行って貰った時のものである。祖父はこの年の春に熊本大学を定年退官し、時間的余裕が出来た頃であった。翌年（昭和31年）には化血研の第4代所長に就任することになる。私の小学生時代には同年代の従兄弟と一緒に、夏休みの数日を利用して祖父の広い家に遊びに出かけていたが、毎朝、化血研の白い血液運搬車が迎えに来ていた。当時は、血液運搬車が所長車の替わりであった。この頃、祖父が化血研の所長職と同時に熊本医学技術専門学校（後の銀杏短大）の学校長を兼任していた事を知ったのは、後になってのことである。

医学部を卒業して選んだのは病理学の道であった。大学院を修了し、病理専門医の資格を取得後、兼業として市内の公的病院で病理診断業務を行うことになった。病理検査室では多くのベテラン技師さん達と一緒に仕事をするのだが、その多くが銀杏短大卒で且つ、学長時代の祖父をご存じであった。この様な経緯を経て、銀杏短大（現 熊本保健科学大学）が私自身にとって身近な存在として認識されるようになった。今般、学長就任の機会を得て、大変有り難く思っている。崎元前学長（現理事長）が進められている教育改革を引き継ぎ、保健医療系大学として、我が国のリーディング大学の一つとなれるように力を尽くしたい。



4月・5月・6月の主な行事予定

5/11 (土)	看護3年保護者会
5/15 (水)	開学記念日 創立60周年記念事業
5/29 (水)	銀杏学園 理事会・評議員会
5/31 (金)	新任教員によるお披露目講演会
6/1 (土)	リハ(ST) 就職説明会・実習指導者会議 コンケン大学交換研修生受入（～6/14）
6/14 (金)	進路指導教員対象進学説明会 実習指導者会議（認定）
6/15 (土)	球技大会

※4/27 (土)～5/5 (日)はお休みです。5/6 (月)は出勤日（有給休暇促進日）です。

第2回 FD セミナー

3月27日(水)にくまもと心理カウンセリングセンター代表の岡崎光洋先生をお迎えし、第2回FDセミナーを開催しました。「教育機関へのクレームの傾向と望ましい関わり～近年の事例から～」と題して、関係者への対応や信頼関係の構築の仕方等を社会的背景や具体的事例、ユーモアを交えながらご講演いただきました。本学教職員約100名に加え他大学からもご参加いただき、充実した時間を共有できたのではないかと思います。（文責：FD委員長）

第2回 利益相反に関する研修会

3月15日(金)平成30年度第2回利益相反に関する研修会を開催しました。始めに4月1日から施行する兼業規則について事務局から説明がありました。続いて本学顧問弁護士の馬場先生より兼業規則も含めた利益相反の話をさまざまな立場で説明して頂きました。少しずつでも皆様の利益相反への理解が進んでいただければ幸いです。

（文責：企画課）



リーダーズ研修会

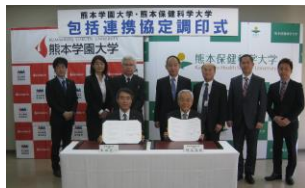
3月22日(金)、リーダーズ研修会を学内にて行いました。学友会役員と来年度のクラブ部長の80人が参加しました。午前中は、株式会社CCI ジャパン 日本コミュニケーション・コーチング研究所の元田曉輝先生に、「最高のパフォーマンスを発揮するために」というテーマで、講義とワークをしていただきました。午後は、学友会役員とクラブ部長に分かれて、予算や1年間の計画について話し合いました。終日の研修会でしたが、学生たちは真剣に参加し、活発な意見交換が行われ、充実した時間になったと思います。来年度の皆さんの更なる活躍を期待しています！（文責：学務課）



熊本学園大学との包括連携協定について

3月27日(水)、本学と熊本学園大学は包括的連携協定を締結しました。本学が他大学と包括的連携協定を締結するのは初めてです。調印式は、本学の崎元達郎学長、熊本学園大学の幸田亮一学長をはじめ、双方の関係者が出席し、熊本学園大学で行われました。

今回の協定調印は、教育研究および組織運営等の分野で包括的に緊密な協力関係を築き、幅広い分野で連携していくことを目的としています。今後、キックオフシンポジウムや講演会の共同開催、両大学の教職員の資質向上に向けた取り組みなどの実施に向けて協議をすすめていきます。(文責：企画課)



健康と科学の夕べ

2019年3月15日に開催された“ちいき楽暮”主催の“健康と科学の夕べ”において、岩手保健医療大学学長の清水哲郎先生をお招きし「人生の最終段階における医療・ケアに関する意思決定支援」と題してご講演いただきました。医療や介護の現場で最近重要視されている「ACP: Advance Care Planning」についてわかりやすくご説明いただき、参加者の感想からも上記を含む意思決定支援について意識が高まっていることがわかりました。保健医療に関わる専門職のみならず、すべての地域住民が自分ごととして考えていくことが重要な事柄であることについて改めて共有する機会となりました。(文責：地域包括連携医療教育研究センター)



入学式

平成31年4月2日(火) さくらが満開を迎えた春の良き日に、竹屋新学長をお迎えしアリーナにおいて入学式を挙行いたしました。医学検査学科117名、看護学科127名、リハビリテーション学科134名(理学48名・生活39名・言語47名)、大学院4名、助産別科20名、認定看護師教育課程24名、総計485名の新入学生・研修生を迎え、多数のご来賓、保護者の皆様にご臨席いただきました。新入学生・研修生を代表して看護学科の橋本いおりさんが宣誓を行いました。これからの大学生活のご健闘を祈ります。(文責：総務課)



第10回日本・台湾・韓国細胞検査士合同セミナーに参加して

今回、私たちは韓国の仁川で開催された第10回日本・台湾・韓国細胞検査士合同セミナーで発表する機会を与えて頂きました。発表を行うにあたり、スモールグループのメンバーで、まず先輩方の研究の内容を先生方から教わりながらしっかり理解し、英語でパワーポイントおよび発表原稿を作成しました。その後、本番に向けて発音の練習や質疑応答に備えて対策を練りました。学術集会の参加自体、初めての経験であった上に、英語での発表ということもあり、本番は非常に緊張しましたが、練習の成果もあり無事に発表を終えることが出来ました。

発表後は、各国の参加者の皆様から有難いお言葉を沢山頂き、非常に嬉しく思うと同時に大きな達成感を得ることが出来ました。海外で学術集会に参加し、英語で発表を行ったことは私にとってかけがえのない経験になりました。また、関東、関西から参加されたベテラン細胞検査士の方々のお話を聞き、非常に学びの多い有意義な時間を過ごすことが出来ました。

今回の経験を今後の糧とし、より一層語学の学習に磨きをかけ、将来、自分が就職してから再度このような国際的学術集会で発表できるよう精進していきたいと思います。(文責：医学検査学科4年 一身百香)



合志市カントリーパーククリレマラソン

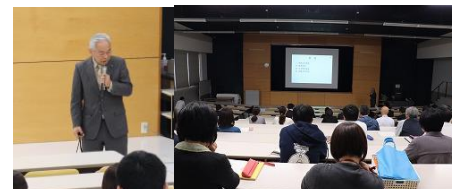
4月13日(土) 熊本県農業公園カントリーパークでリレマラソンに参加しました。

19名の教職員有志が42.195kmをタスキリレー形式で完走しました。目標は制限時間5時間以内でしたが記録タイムは4時間15分と大幅に短縮することができました。最後は皆でフィニッシュテープを切り盛り上がりました。終了後、筋肉痛等の症状が出現された方もいらっしゃいましたが、けが人もなく無事大会を終えることができました。来年は4時間切ろうとの声も出ています。応援に来てくださった皆様、ありがとうございました。(文責：企画課)



FD 特別セミナー

4月12日(金)にFD特別セミナーを開催し、崎元理事長(前学長)に「熊保大の現状と将来～教育改革を中心に～」と題してご講演いただきました。少子高齢化の加速化に伴い、2014年に文科省から高大接続システム改革や新学習指導要領が公表されました。先生は、2015年4月に学長に就任されると同時に、これに対応すべく教育改革推進会議を立ち上げ、3ポリシーの見直しと公表、カリキュラム改革、アクティブ・ラーニングやルーブリック評価の導入、アセスメントプランの構築や修学ポートフォリオの導入などの多くの改革に陣頭指揮を執ってこられました。これにより、本学の教育改革は大幅に進展し、今や改革は他大学をリードしているものと思います。講演は、崎元先生の教育にかけける情熱がひしひしと伝わってくる内容で、参加者一同、その取り組みの意味を十分に共有できたものと思います。(文責：杉内前FD委員長)



アクティブ・ラーニング ワークショップ

3月20日(水)に今年度2回目のアクティブ・ラーニングワークショップ(FD委員会との合同開催)を開催し、64名の教職員が参加しました。今回は医学検査学科・正木教授、看護学科・大澤准教授、リハビリテーション学科・小手川助教、共通教育センター・田中講師の計4名の先生方に、担当科目におけるアクティブ・ラーニングの取り組みについてご発表いただきました。最後には活発な質疑応答が行われ、充実した時間を共有することができました。(文責：教育方法改革委員長・FD委員長 杉内博幸)



平成 31 年度科学研究費採択

平成 31 年度の科学研究費助成事業（基盤研究、若手研究）に 7 件新規採択されました。おめでとうございます。（敬称略）

種目	氏名	期間	研究課題名	交付予定額 (直接経費)
基盤研究 (C)	吉村 友希	H31-33	作業療法学生を対象とした精神障害領域の臨床実習に対する自己効力感尺度の開発	2,000,000
基盤研究 (C)	安楽 健作	H31-33	MA ドメインとカルジオリピンとの結合を基軸とした抗エイズ薬の創製	3,300,000
基盤研究 (C)	甲斐村 美智子	H31-34	地域特性に基づく幼児の睡眠習慣と環境要因に関する研究	2,900,000
基盤研究 (C)	土井 篤	H31-33	線維筋痛症に対する振動刺激の疼痛緩和作用と中枢神経メカニズムの解明	3,300,000
若手研究	井崎 基博	H31-33	自閉スペクトラム症児における「他者との同期」現象の定量化	2,000,000
若手研究	井上 加奈子	H31-33	看護教員の看護学実習における教育実践知の構造-省察的実践論を基盤として-	1,500,000
若手研究	中原 和美	H31-33	地域互助機能を活用した介護予防活動の身体的・心理社会的効果と医療経済的効用	1,400,000

私の秘話ヒストリー

今回はリハビリテーション学科 理学療法学専攻 申 敏哲准教授に投稿していただきました。

私の信念は、「いつも笑顔で、ポジティブに考えよう！」です。「いつも貴方は元気だね！」と周囲の人は声をかけてくれますが、過去の私は、根暗で口数の少ない消極的な性格でした。しかし現在の私を変えてくれたのは友でした。その友は突然の病に倒れ、病气と闘う気力をなくし、友の顔からはだんだん笑顔が消えていきました。そんな友の手助けをすることもかなわず、ただ様子を見守ることしか出来ませんでした。病と闘っている友が、気力と笑顔を取り戻すにはどうしたらよいか、と考えた私は、毎日“楽しく話し笑う練習”をした後、その友に会いに行くようにしました。私は友に病室で会う時は、「きっとあなたは元気になる、大丈夫だよ。」と励まし続けました。しかし、その甲斐なく友は半年後、亡くなってしまいました。亡くなる少し前に友は私に「貴方の自信を持った笑顔がとてもいい。これから貴方はきっと何でもできると思うよ」と逆に私を励まして死へと旅立ちました。数年後、私は教育の現場に立ちました。今でも苦しい時悲しい時には、その友の言葉を思いだしては心に言い聞かせ、力としています。また、教育の現場で過去の私のような学生がいたら、友の言葉を思い出し、肯定的に物事をとらえ自信に満ちた笑顔に変わるよう接し導いていきたいと常日頃から思っています。人間は変わらないというけれど、自分の努力次第で変われると私は信じています。また良い友と巡り合い、お互いに良い影響を受け、人として輝いて生きていけるのではないかと過去の経験から信じてやみません。

国家試験合格状況※下段の（ ）は全国

	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	昨年の合格率 (%)
第 105 回 保健師	20 (8,376)	18 (6,852)	90.0 (81.8)	90.5 (81.4)
第 108 回 看護師	122 (63,603)	118 (56,767)	96.7 (89.3)	98.2 (91.0)
第 102 回 助産師	21 (2,105)	21 (2,096)	100 (99.6)	100 (98.7)
第 65 回 臨床検査技師	113 (4,817)	94 (3,620)	83.2 (75.2)	96.0 (79.3)
第 54 回 理学療法士	48 (12,605)	45 (10,809)	93.8 (85.8)	97.8 (81.4)
第 54 回 作業療法士	45 (6,358)	41 (4,531)	91.1 (71.3)	85.7 (77.6)
第 21 回 言語聴覚士	46 (2,367)	45 (1,630)	97.8 (68.9)	97.2 (79.3)